

## 歴史研修（その7）

2016年4月4日(月)～6日(水)



熊本城の宇土櫓前で



# 豊後・肥後・筑後の城めぐり

今回の歴史研修の舞台は名城が多く、石垣の残存率が高い九州です。羽田空港に集合し、大分へ。初日は杵築城と府内城を訪れ、湯布院温泉に宿泊。二日目は岡城を見学後、熊本城へ。夜は菊地温泉をゆっくり堪能し、最終日は柳川城と福岡城を満喫。充実した研修となりました。帰京8日後に起きた熊本地震は、熊本城の石垣や櫓に大きな被害をもたらしました。あの雄姿を再び目にするのができるのは、数十年後とか。一日も早い復興を願わずにはいられません。

解説 静岡大学名誉教授  
小和田 哲男さん

1394年、木付頼直によって八坂川河口の台山に木付城が築かれました。「杵築」という表記になったのは、正徳2(1712)年、將軍家宣の朱印状に「杵築」と記載されていたからだと言われています。高山川と八坂川が交わる台地上に築かれた杵築城は三面を海と川に囲まれており、敵の侵入を未



酢屋の坂から志保屋の坂を望む

杵築城から一望できる守江湾



タイミングよく満開の桜と城の風景を同時に楽しむことができました

### 杵築城

然に防いできました。現在は高台から守江湾を一望することができます。また、杵築城周辺は城下町の風景が色濃く残っているのも大きな魅力。武家屋敷がある北台、南台の台地間の谷町に町屋が立ち並び、台地と低地を結ぶ石畳階段の坂道が、杵築独特の立体的景観を作っています。

### 府内城

戦国時代、九州の三強と呼ばれていた薩摩の島津および肥前の龍造寺、豊後の大友。その中の大友宗麟はキリシタン大名として名を馳せており、現在も大分市に



1996年に復元された廊下橋は、かつて西の丸と山里丸(現在の松栄神社)を結んでいました

本丸跡地に残る人質櫓。その名の通り、人質を収容していました



は大友家の彫刻物や石像などが数多く残っています。一行が向かったのは、元々豊後の国府があったことから現在の呼称となった府内城。豊臣秀吉によって大友家が滅ぼされた後の慶長2(1597)年、石田三成の妹婿である福原直高によって築かれました。商船の積荷を下ろす船養場として栄えていたことに由来して、「荷落城」とされていますが、縁起が悪いとして「荷揚城」と命名されました。

その後1601年に竹中重利が藩主となり、四重の天守閣を設けました。古くから不吉な「四」は避けられてきたため、全国的にも希少な天守閣といえます。

### 岡城

岡城は戦国時代に勢力を伸ばしていた大友宗麟の重臣である志賀親次が居城としていました。大友と敵対関係にあった島津からの度重なる攻撃を防いできたことから、志賀は武将として高く評価されていました。しかし、文禄2(1593)年に宗麟の嫡男である義統が改易されたことをきっかけに志賀は岡城を去ります。そして翌年、移封してきた中川秀成が大規模な増改築を行い



ました。

岡城周辺は地震が多いところであつたため、江戸時代にも修築が繰り返されており、現存する石垣には落とし積み<sup>おとしづみ</sup>の技法が使われているものもあります。

二の丸跡。岡城をモデルに「荒城の月」を作曲した滝廉太郎の銅像



落とし積みの石垣。石が斜めに積んであります

## 熊本城

大岡検地に反発する国人一揆の鎮圧に失敗した佐々成政に代わって、肥後を治めることになったのが加藤清正と小西行長です。北肥後を与えられた清正は、豊臣秀吉より築城の命を受けていましたが、その前に菊池川や緑川、白川といった河川の整備に目を向けました。いずれも上流から下流にかけて一貫した城主がおらず、



「扇の勾配」という技法を使った石垣は曲線が美しいだけでなく、安定感にも優れています



小天守には下に「忍び返し」と呼ばれる槍のような鉄串がついており、敵の侵入を未然に防いでいました

荒廃が進んでいたため、堤防に手を加えることにしたのです。現在も残る「清正堤」と呼ばれる遺構からは、清正の治水能力の高さがしのべれます。

熊本城の築城にあたっては、お抱えの土木技師である森本儀太夫と飯田寛兵衛の力を借り、独特の美しい勾配を持つ石垣を完成させます。後の、熊本を主戦場とした西南戦争では、西郷隆盛による猛攻を受けたものの落城せず、難攻不落の名城として名を馳せました。



頼当御門で解説する小和田先生

この石垣のほかに熊本城を特徴づけるのが井戸の存在です。朝鮮半島に出兵した慶長の役における蔚山城の籠城戦で、深刻な水不足に悩まされた経験から、清正は城内に120カ所以上の井戸を掘らせたといわれています。

## 柳川城

中世末期、柳川地区を治めていたのが立花道雪の養嗣子である立花宗茂です。

慶長5(1600)年、宗茂は大津城攻めで頭角を現したものの、関ヶ原の戦いでは大敗を喫し改易に。その後江戸で浪々の生活が続きましたが、二代目将軍秀忠との出会いをきっかけに陸奥国の大名家となりました。その力量が認められた宗茂は、最終的にかつて

の家臣とともに柳川城へ戻ったと言われています。その後、柳川城に入城したのは愛知県・岡崎の大名だった田中吉政です。土木に関する豊富な知識を生かし、低湿地という柳川地区の特徴を踏まえた築城・浄化の整備を行いました。これにより平城であっても敵が近づきにくい柳川城が完成します。



柳川の川下りを楽しんだ

## 福岡城

関ヶ原の戦いを終え、豊前の大名・黒田長政が名島城に移封しました。しかし、大きな城下町を築けるほどの土地がなかったことから、長政は福岡(現舞鶴公園)に新たな平城を設けました。

博多湾と入江をうまく使った福岡城は広い本丸が特徴の一つ

で、関西以西では最大級の規模を誇っていました。

## 天守閣の謎

これまででは福岡城に天守閣は存在しないという定説が有力でした。しかし、天守閣が記された絵図面が残っていたり、加藤家に次いで熊本城を治めていた細川家の文書から長政が天守閣を壊しているといった情報が見つかったりしたことから、近年はその定義に疑問が投げかけられています。



南丸に位置する多聞櫓。長屋型で16の小部屋に分かれているのが特徴です

鬼門封じの祈念をするために建立された祈念櫓。福岡城には47もの櫓がありました

